

隼人族の森を渡る風

第90回

彫刻家 上床 利秋

40年ぶりに卓球大会に

先日、始球卓球大会（始良卓球連盟主催）に出場してみた。この大会は年齢、性別、不問で、1台の卓球台につき、約7人がリーグ戦で勝負する。今年の参加者は199名。29台もの卓球台が隼人体育館に並ぶと壮観である。第1パートはオリンピック出場を夢見るような人たち、第29パートは初心者たちの集まるところである。基本的に参加者たちの希望で各パートは選べるが、これまでの大会成績と大会関係者の判断で割り当てられているようだ。

私は大人になって公式の卓球大会に出場するのは初めてだったのだけれども、大会関係者の計らいで第9パートに配属された。結果は4勝2敗。男子高校生2人に負けた。この歳（66歳）になっても、やはり悔しく思う自分がいる。

敗因ははつきりしている。スタミナ不足だ。そして若い人のスマッシュにはスピードがある。それに対応できるようにするには練習もさることながら、痩せることも私には必要だと思った（笑）。健康を維持するために卓球というスポーツを再開したが、目標を定めることは大切だ。6試合をゲームした後には太腿の内側が筋肉痛でこむら返りを起こす寸前だった。今後の練習に課題が見つかったのは良かった。

彫刻の世界では精神力と感性を磨いて、作家として本当に作品を充実させる人は、体力を維持して晩年まで制作活動を続けられる人ではないだろうか。

2024年6月



6月2日（日） 於 隼人体育館 大会風景



奥でバックレシーブをしているのが筆者